

日本初記録！深海から珍しいハゼ発見 和名『ユウナハゼ』を提唱

(一財) 沖縄美ら島財団と OIST らの研究グループ 学術雑誌「Zootaxa」にて発表

一般財団法人沖縄美ら島財団と沖縄科学技術大学院大学(OIST)らの研究グループは、沖縄県恩納村瀬良垣沖の水深 214m から無人探査機(ROV)で採集した貝殻の中にいたハゼ類が、日本初記録となる *Larsonella pumilus* であることを明らかにしました。

体全体が黄色いことから、沖縄の代表的な黄色い花であるユウナ(オオハマボウ)にちなみ、新和名「ユウナハゼ」を提唱しました。本研究の内容は、学術雑誌「Zootaxa」に掲載(オンライン公開)されました。

■論文情報■

論文タイトル: First record of *Larsonella pumilus* (Teleostei: Gobiidae) from Japan, with phylogenetic placement of the genus *Larsonella*

著者: 花原 望 一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター 動物研究室
東地 拓生 一般財団法人沖縄美ら島財団 水族館事業部 魚類課 深海展示係
新里 宙也 東京大学大気海洋研究所
小柳 亮 沖縄科学技術大学院大学 DNA シーケンシングセクション
前田 健 沖縄科学技術大学院大学 マリンゲノミクスユニット

雑誌名: Zootaxa

論文 URL: <https://www.mapress.com/j/zt/article/view/zootaxa.4695.4.4>

■ポイント(詳細は別添資料)■

- ・一般財団法人沖縄美ら島財団による無人探査機(ROV)を用いた深海生物調査で、恩納村沖の水深 214m の海底からオオクマサカガイの貝殻の中から日本初記録となるハゼ類 *Larsonella pumilus* が見つかった。
- ・本種の発見は世界的にも珍しく、今回の報告は 7 例目となる。日本では初記録。
- ・DNA 解析により、本種と近縁種との系統関係を初めて明らかにした。
- ・黄色いユウナの花にちなみ、本種の新標準和名「ユウナハゼ」を提唱した。
- ・今後も無人探査機(ROV)調査によって珍しい生物が発見され、沖縄の深海の生物相やそれらの生態学的知見が増えることが期待される。

■代表研究者■

花原 望(はなはら のぞみ)

修士(理学) 一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター 動物研究室 職員

<お問い合わせ>

一般財団法人 沖縄美ら島財団 企画広報課 菅間、安里

TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-3122 E-mail: oki-pr@okichura.jp

沖縄科学技術大学院大学 広報メディアセクション 大久保

TEL 098-982-3447

※研究内容に関するご質問には、当財団の研究員がお答えします。

■研究の概要■

ハゼ類は、世界から 2000 種以上が知られ、魚類の中でも最も種多様性が高いグループのひとつです。その多くは沿岸域や河川に生息しており、深海のハゼ類に関する情報はほとんどありません。

2017 年 8 月、沖縄県恩納村瀬良垣沖で、一般財団法人沖縄美ら島財団による無人探査機 (ROV) を用いた深海調査において、水深 214 m の海底から採取したオオクマサカガイの貝殻の中から 1 個体のハゼ類が見つかりました。このハゼは種不明のまま沖縄美ら海水族館で飼育されていましたが、3 か月後に死亡したため、その種類を明らかにするための詳細な標本調査が行われました。

このハゼは体全体が黄色く、尾鰭の付け根だけに鱗を持つなど、これまで日本において知られていたどのハゼ類とも異なる特徴を持っており、精査の結果、*Larsonella pumilus* という種であることがわかりました。本種は世界的にも珍しく今回は世界で 7 例目であるだけでなく、太平洋北西部からは初めての発見であると同時に、最も深い水深からの記録であることもわかりました。

また、研究グループは、本種の系統関係を明らかにするための DNA 解析 (ミトコンドリア DNA 全塩基配列の比較) を行いました。その結果、本種はサンゴ礁や岩礁などに棲むイレズミハゼの仲間に近縁であることがわかりました。

日本初記録である本種には和名がなかったため、今回新しく標準和名「ユウナハゼ」を提唱しました。これは、本種の体全体が黄色いことから、沖縄の代表的な黄色い花であるユウナ (オオハマボウの沖縄における一般的な呼称) にちなんだものです。

■今後の展望■

深海に生息する魚類は、漁獲物やその混獲などによって発見されることが多く、漁獲対象ではない小型の生物はあまり注目されず、不明な点が多くありました。しかし、近年、無人探査機 (ROV) による調査で深海の小型生物の発見が相次いでおり、今回の研究もその一例といえます。

今後も無人探査機 (ROV) 調査によって珍しい生物が発見されることで、みなさまに海の生物の面白さをお伝えできればと考えております。



<写真の説明>

左：採集直後に背面から撮影したユウナハゼ (全長 2.5 cm)

右：無人探査機 (ROV)